

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う現状調査結果報告(要約)

公益社団法人 山口県看護協会
令和2年5月20日

現状調査を実施いたしましたので結果について報告いたします。

- 1 目的 一般の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染患者への対応並びに感染防止対策に日々努力をしている病院の現状と看護職への影響を把握し、日本看護協会への情報提供及び行政機関等への要望をすることにより、看護職への支援を図る。
- 2 調査期間 令和2年4月24日～令和2年5月12日
(調査対象期間 令和2年3月1日～令和2年4月20日 51日間)
- 3 調査対象 山口県内144病院 看護部長及び同役割にある看護管理者
- 4 調査方法 調査期間に調査票を郵送留置き法とした 返信方法はFAXまたはメールとした
- 5 回収状況 回答数112病院 回答率 77.7%

6 調査結果のまとめ

1) 現状

- ① 調査期間において、感染症拡大による看護職の充足状況に変化はないと回答したのは、96病院(85.7%)であり人員的に逼迫した状況はなかった。
- ② 子供の休校に伴う勤務への影響は、59病院(52.7%)があったと回答した。その内容は、急な休みの希望が最も多く346件で、続いて夜勤の交代が32件であった。
- ③ 看護管理者が把握している風評被害は、22病院(19.6%)から57件の報告があった。具体例の記載では保育園の利用を断られるなど、保育園の利用に関することが多く預けることが出来ずやむをえず休暇を取得した。他、看護師の家族ということで辛い思いをしたなどの例があった。
- ④ 防護具については、マスクが不足していると回答したのは93病院(83%)であり、2日で交換が31病院、3日で交換が15病院、1週間使用が21病院と、マスクや消毒液等が不足し感染の不安を抱えながら業務を行っている厳しい状況があった。
- ⑤ 調査の対象病院の多くは、看護学校の実習病院であるが、感染症拡大に伴い患者家族の面会制限など外部からの立ち入りは厳しく制限されていることから、学生の臨地実習も制限せざるを得ない状況にある。このことは、学生の教育の質の担保や単位取得にも影響することから各病院で対応に苦慮している。

2) 要望

- ① 今後、感染者が増加し入院患者が増加した場合は看護師の不足が懸念されるので、潜在看護師の掘り起こしを継続してほしい。
- ② 要望項目では、「マスク等の防護具、消毒液に関すること」が26件と最多で、安定的に供給されるようにしてほしいことと、不足状況の中で価格の高騰があり感染対策を実施するうえで病院経営の負担となっているので支援してほしい。
- ③ 「看護職への支援に関すること」としては、感染患者を担当する看護師に危険手当の支給、病院、看護師等への風評被害への対応として県民への啓発をお願いしたい。

3) 今後の不安

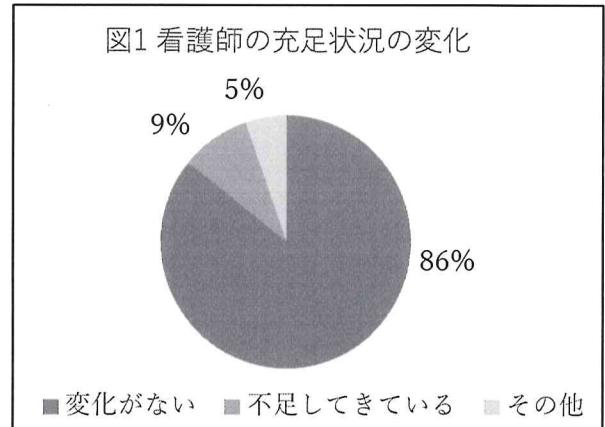
- ① 「マスク等の防護具、消毒液の供給等に関すること」が26件ともっとも多く、次に「入院患者からの感染者の発生、院内感染に関すること」が20件あった。院内感染による医療崩壊を招かないためには、現場に十分な防護具(マスク、ガウン、N95マスク、フェイスシールド、PPE等)の供給が必要であるが、見通しが立たず感染対策が十分にできるか不安。
- ② 感染の長期化による看護職の疲弊や離職増加、次年度の新卒看護師の採用への取り組みへの影響など、看護職の心身の健康管理や人員確保について不安。

以上

調査結果の抜粋

1 新型コロナウイルス感染症の拡大による看護師の充足状況の変化(図1) n=112

- ・変化なし 96 病院
- ・不足してきている 10 病院
- ・その他 6 病院

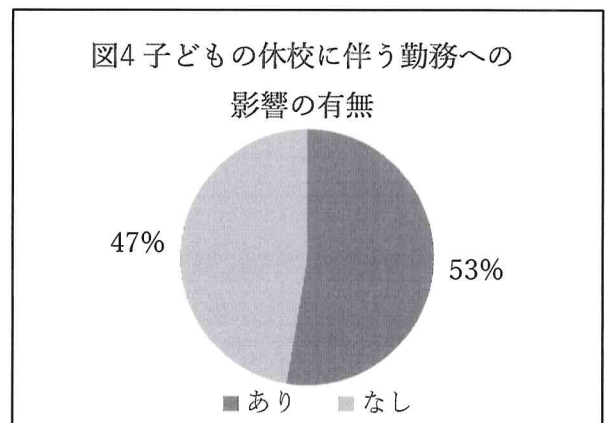


2 子供の休校に伴う勤務への影響の有無(図4) n=112

- ・影響あり 59 病院
- ・影響なし 53 病院

<勤務への影響の件数>

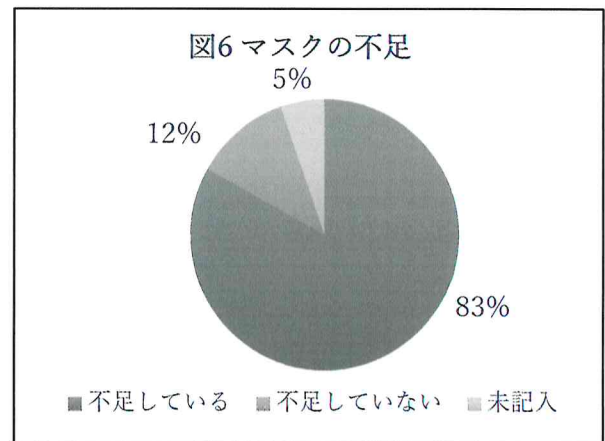
- ・夜勤の交代 32 件
- ・急な休みの希望 346 件
- ・その他 124 件



3 防護具等の状況について

1) マスク(図6) n=112

- ・不足している 93 病院
- ・不足していない 13 病院
- ・未記入 6 病院



4 マスクの交換頻度(図7) n=112

- ・毎日 37 病院
- ・2日に1回 31 病院
- ・3日に1回 15 病院
- ・1週間使用 21 病院
- ・その他 2 病院
- ・未記入 6 病院

